



# ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 210  
September  
2010

## トピックス

### 人材育成

中央アジア・コーカサ  
ス地域防災行政コース

### ADRC客員研究レポート

カルメリータ・ラヴェ  
リント研究員

### 国際会議への参加

ISDRアジアパートナ  
シップ会議

## Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540  
Fax: 078-262-5546  
editor@adrc.asia  
http://www.adrc.asia

© ADRC 2010

## ●人材育成

### 平成22年度地域別研修

#### 「中央アジア・コーカサス地域防災行政コース」

アジア防災センター（ADRC）は、国際協力機構（JICA）からの委託事業として、2010年7月5日から8月7日にかけて、中央アジア・コーカサス地域の防災行政官を対象とした防災行政研修（今年度は第七回目）をロシア語で実施しました。

参加国は、中央アジア地域のカザフスタン、タジキスタン、ウズベキスタン、及びコーカサス地域のグルジア、アルメニアの計5カ国で、中央または地方政府の防災行政担当官計8名が参加しました。

中央アジア・コーカサス地域では、洪水、干ばつ、地滑り、地震といった災害が多く発生し、複数の国に被害が及ぶことも稀ではありません。また、冬季は積雪も多く、雪解け時期に山岳氷河が洪水を発生させることもあり、これらの国々は共通の防災課題を抱えています。

研修員は防災関連機関・施設での視察を交えながら講義を受け、中央政府・地方自治体・防災基地・ライフライン・研究機関・予報機関・メディア・医療・NPO等の役割、GIS技術、国際支援協力、防災教育など広範囲にわたって、日本の防災について学びました。具体的には、ハザードマップ作成のための「タウンウォッチング」プログラムや、昨年洪水被害に見舞われた兵庫県佐用町における講義と視察、四国での砂防ダムの見学などの活動も行いました。また、PCM手法を用いたワークショップ形式でのアクションプランの作成も実施しました。

帰国後、彼らが研修で学んだ知識、技術、手法をいろいろなプロジェクトに応用し、防災体制を強化していくことが期待されます。さらに、研修期間内に深めることができた研修員同士の友好を、当該地域内の防災情報ネットワーク確立に生かしていただきたいと思えます。

なお、当研修実施にあたり、快く訪問等を受入れいただきました各関係機関の皆様には、厚くお礼申し上げます。今後とも引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



〔佐用町での研修〕

**●ADRC客員研究員レポート****カルメリータ・ラヴェリント研究員（フィリピン）**

私はフィリピンから参りましたカルメリータ・ラヴェリントと申します。私は公認会計士をしています。2002年に民間防衛室(OCD)に採用され、主に政府業務を担当しています。現在は中央ルソン地域を管轄するOCD第3地域センターに勤務していて、特別支出・計画および予算管理をしています。また、職員の財務および経営支出の管理、早期資金の対応と信用基金の担当を行っています。さらに、様々な学校で実施している地震防災ドリの運営と合わせて、地方行政に対する災害リスク管理に関するワークショップやセミナーの準備や運営、緊急時対応の計画なども行っています。合わせて、担当地域において地域及び州の災害管理に関する協議会などの活動支援を行っています。

次にフィリピンの概要について説明申し上げます。フィリピンは世界でも最も災害の多い国の一つとして考えられています。また、環太平洋ベルト地帯の西縁に位置していて、地震はもちろん、嵐、台風、洪水、火山、干ばつなど多くの自然災害の影響を受けています。これらの自然災害は人々や経済にとって深刻なもので、特に人口密集地域ではそれが顕著となっています。本国においては、少なくとも60%の地域には自然災害の影響を強く受ける地域となっています。さらに、フィリピンの全人口の74%が自然災害に対して弱い立場にあると言われてい

ます。私の担当する中央ルソンは、フィリピンにおいて最も発展している地域のひとつです。中央ルソンは、ヨーロッパやアメリカの企業にとって貿易の玄関口として機能しています。さらに、この地域はフィリピンでも最も広大な平原を有し、お米の生産地としても有名です。行政の単位としては、中央ルソンは7つの州、13の市と116の町によって構成されています。災害という視点では、特に台風や洪水の影響を多く受けています。

OCD第3地域センターの事務所は、上記の環境にある中央ルソンにおいて地域災害評議会の事務局として役割を担っています。さらに、緊急時における生命や財産の保護や維持を目的として、政府関連機関、民間会社、市民団体の活動や役割を支援する役割を担っています。

最後に、ADRCのVRプログラムは私たちにとってすばらしい機会となっています。ADRCの皆さんとの情報や経験の共有は、安全なコミュニティ確立の促進にむけた戦略的手法の開発の機会を与えてくれます。このような理由からVRプログラムは非常に効果的であるといえます。私はこのプログラムに感銘し、またADRCのVRのひとりとして機会を得られたことをとても嬉しく思います。

日本の開発は驚くべきもので、同様にすばらしい災害対策が実施されています。周りを見てみると、豊富な森林、美しい水や空気、それを取りまくすばらしい環境があります。とてもよい印象を持つことができます。日本における災害管理計画、プログラム、コミュニティにおける開発や努力の知識は、素晴らしい政府のリーダーシップの活動であると言えます。

最後に、日本政府とADRCに対して改めて感謝の意を表したいと思います。



## ●国際会議への参加

### ISDRアジアパートナーシップ会議（第4回アジア防災閣僚会議の準備会合）

アジア防災センターは、2010年8月11日から13日に韓国のインチョンで開催されたISDRアジアパートナーシップ（IAP）会議に参加しました。

今回のIAP会議は、10月にインチョンの国際会議場Sondo Convensiaで開催される第4回アジア防災閣僚会議（AMCDRR）に向けた最後の準備会合に位置づけられており、閣僚会議での議論のテーマや進め方、目指すべき会議の成果等について議論されました。また、国連国際防災戦略事務局（UNISDR）より兵庫行動枠組（HFA）の進捗状況の報告及びHFAモニター（HFA Monitor）での報告方法についての紹介がありました。

アジア防災センターは、閣僚会議での3つのセッションのうち第1セッション「防災と気候変動適応に関する意識啓発と能力向上」のリード・エージェンシーに指名されています。今回の会議では、是澤優ADRC所長よりこのセッションでの検討テーマなどの概要について発表を行いました。また第1セッションで発表を行う機関等に関する調整を行うとともに、インチョン宣言、ロードマップやアクションプランといった成果文書の素案作りにも積極的に関わりました。

ADRCはこの他にも防災及び気候変動適応への宇宙技術の活用、IRP（国際復興支援プラットフォーム）、アジア防災映画祭のサイドイベントを開催する予定で、現在準備を進めています。今回の準備会合での議論を踏まえ、引き続き、担当するセッションやサイドイベント等のための準備を着実に進めていきます。



#### 問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。